

専修大学社会科学研究所公開シンポジウム

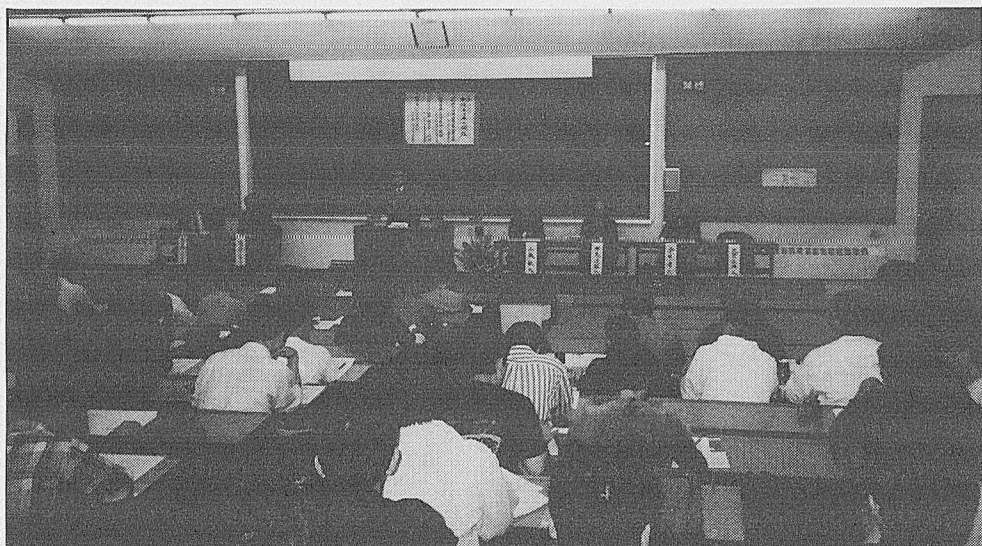
「戦後50年の現在」

——敗戦から50年のいま、日本が立つ地平を経済、政治・社会、
国際関係から考える——

1995年10月21日（土）午後1：00～6：20 共催 法学研究所・人文科学研究所

目次

I 開会の挨拶	専修大学社会科学研究所所長 泉 武夫	3
II 問題提起		
	冷戦体制の解体と日本資本主義の危機	
	二瓶 敏（専修大学経済学部教授）	6
	戦後50年の政治の総括と展望	
	中馬 清福（朝日新聞社論説主幹）	24
	アジアからみた日本——第3ステージの門出——	
	涂 照 彦（名古屋大学経済学部教授）	33
	東アジアにおける円の役割	
	大倉 正典（専修大学経済学部助教授）	43
III 討 論		52
	司会 小沼 堅司	
	矢吹 満男	
IV 公開シンポジウムを終えて	事務局長 澤野 徹	73
<編集後記>		75



10月21日(土)
午後1時—5時

冷戦体制の解体と日本資本主義の危機

二瓶 敏 (専修大学経済学部教授)

戦後50年の政治の総括と展望

中馬 清福 (朝日新聞社論説主幹)

アジアからみた日本—第3ステージの門出

涂 照彦 (名古屋大学経済学部教授)

東アジアにおける円の役割

大倉 正典 (専修大学経済学部助教授)

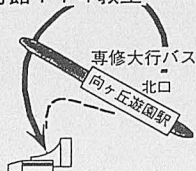
戦後五〇年の現在

公開シンポジウム

敗戦から五〇年のいま、日本が立つ地平を経済、政治・社会、国際関係から考える

専修大学生田校舎
1号館114教室

専修大学
社会科学研究所
法学研究所
人文科学研究所



司会（小沼）

「戦後50年の現在」というテーマで公開シンポジウムを開催したいと思います。このシンポジウムは、専修大学の社会科学研究所、法学研究所、人文科学研究所の3研究所の共催として開催されます。

今日のシンポジウムの内容は、お手元のご案内状でおわかりかと思いますが、まず最初に二瓶先生から「冷戦体制の解体と日本資本主義の危機」というテーマでご報告いただき、その後続けて朝日新聞の中馬先生から「戦後50年の政治の総括と展望」というご報告をいただきます。それぞれ40分の時間でご報告をいただきまして、お二人の先生の報告が終わりました後、10分間休憩をとりたいと思います。その後続けて涂先生と大倉先生にご報告していただくことになります。一応報告を4時までに終え、予定では4時から5時まで質疑応答の時間にしたいと思っております。会場の入口で簡単なこういう用紙をお渡ししたと思いますが、質問のある方はこちらの用紙に書いて、司会者の方へ休憩時間等を利用して、あるいは後半の部の先生のご報告につきましては、終わった後に持ってきていただきたいと思います。一応、そういう予定でこのシンポジウムを進めたいと思いますので、よろしくご協力をお願いしたいと思います。では、シンポジウムを始めるにあたりまして、3研究所を代表しまして、社会科学研究所の所長の泉武夫先生の方から、講師の先生方のご紹介を含めてご挨拶をいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

I 開会の挨拶

専修大学社会科学研究所所長 泉 武 夫

ただいま紹介いただきました、社研の泉でございます。今回の公開シンポジウム開催にあたりまして、主催者を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。生田の山の上という、悪条件にもかかわらず多数の市民の皆さん、ようこそおいでくださいました。また、学生の皆さん、それから教職員のみなさん、私共の計画に賛同してくださいまして御礼申し上げます。主催者を代表して、心より感謝致します。予定では4時間ですが秋の半日、大いに楽しんでいただければ、私共はこのシンポジウムを計画した甲斐があったと思っております。

みなさんもお承知のとおり、今年は第2次世界大戦が終わりましてから50年、節目にあたっております。アジア諸国にとりましては解放されてから50年、日本からすれば敗戦から50年、この年を記念しまして、新聞、テレビあるいは雑誌等でいろいろ情報があがっております。そのことは皆さんもお承知であろうと思います。そこで、我々といたしましても社会科学、ないしは人文科学を研究している者として、この際どのようにコミットできるだろうかと考えた末、公開シンポジウムという計画をたてました。一口に戦後50年と申ししましても、切り口ともうしますか、あ

るいはアプローチの仕方ともうしましょうか、いろいろあろうかと思います。例えば、なぜ日本はある野蛮な15年戦争に突入していかざるをえなかったのかといった問題ですとか、あるいは戦争責任の問題でありますとか、あるいは日本の植民地となり、または、日本の侵略を受けた国民のみなさんと侵略していった日本国民との意識の落差問題でありますとか、あるいは戦後処理、戦後補償の問題でありますとか、日独の比較といった問題、従軍慰安婦問題、その問題に対する処理の仕方、さらには今もって性懲りもなくあの15年戦争は侵略戦争ではなかったという政治家が現れる、戦後50年経っても現れる、そういった問題、その精神構造、どうなっているのかといった問題、いろいろあるだろうと思います。そこで私共といたしましたら、今回のシンポジウムを計画するにあたりまして、どこに切り口を求めたらよいか検討しました。

実は昨年同じように公開シンポジウムで「戦後補償問題の解決を目指して」と題しまして公開シンポジウムを行いました。そこでは戦後補償、戦争責任の問題について学習した次第です。それも考えてみれば、戦後50年の一環として位置づけることができるだろうと思います。その一回限りの学習ですべての戦後補償、戦争責任問題がわかったとはとてもいえない、ということなのですが、昨年のシンポジウムを踏まえて、今回は思い切って戦後50年の歴史をふまえつつも、世界史を戦後50年の現段階で輪切りした場合、その輪切りしたところを日本を位置づけた場合、何が見えてくるのか、そういった問題意識でシンポジウムを計画してみようということとで今回の運びになった次第です。

そうしますと戦後50年、あるいは敗戦から50年という現代にかかわる諸事件、社会現象を見てまいりますと、さまざまなことが集中して起こっていることに気がきます。例えば、戦後世界を規定してまいりました冷戦体制が解体した。あるいはそれとのかかわりですが、ソビエト型社会主義が崩壊し、さらには大分たちますけどアメリカが純債務国に転落して、それから依然として脱却できないという問題。さらにはアジアNIEsに急速な勢いでせまってくるASEAN諸国の成長といったこともあります。さらには世界経済の中心が大西洋から太平洋に移ってきているということもあります。さらにはEAECですか、東アジア経済会議構想ですとか、それに対抗する形でのAPEC（アジア太平洋経済閣僚会議と訳すのでしょうか）といった構想ですとか、さらにはそういったことにもかわらず、アジアには依然として冷戦の遺物であります分裂国家が存在している、といった問題もあります。さらに国内に目を転じますとバブル経済の崩壊後の日本、私は平成世紀末大不況とよんでいるのですが、そういった不況が依然として出口が見えないままである、といったこと。さらには55年体制、政治的には55年体制が崩壊し、現在の政治状況になっている、ということがあります。さらに、敗戦から50年経ったにもかかわらず、その50年をまったくゼロにするような事態が沖縄で起こっているのです。アメリカ軍人による少女暴行事件とか、あの処理の仕方を見てますと、4万7千人にも及ぶアメリカ軍人の駐留や沖縄を中心とした圧倒的なアメリカ軍

の基地の存在を考えますと、日本は戦後50年たったけれども完全な主権国家ではなかったんだと、改めてそういう思いをさせられます。

そういったことを考えてみますと、今日のシンポジウムの意義といたらいいでしょうか、自ずと浮かび上がってくるのではなかろうかと思っております。ただ、皆さんに前もってお断りしておきたいのですけれど、今日のシンポジウムにあたって本来なら事前に予備研究会ですとか、打ち合わせをやるべきなのでしょうけれど、なにしろ時間がございました。それで「戦後50年の現在」というただそれだけの共通のテーマの上にパネリストのみなさんにご報告いただくことになっております。それにもかかわらず、なんらかのおそらく方向が出てくるのではないかと、単数にしる複数にしる、何か出てくるのではないかと、そういった主催者側としての期待をいただいております。問題提起とまでいきませんが、そんなことを考えてこのシンポジウムを計画したとご了承いただきたいとおもいます。前置きが長くなりました。今日のパネリストをお引き受けいただいた4人の先生方を簡単にご紹介したいと思います。

まず、一番手前にお座りの二瓶さんですが、経済学部で教授でいらっしゃいます。二瓶先生は日本資本主義分析に関しまして、特に戦後日本資本主義分析に関しまして学会を代表する第一人者であります。お二人目は中馬清福さんですが、現在朝日新聞の論説主幹をなさっています。中馬さんはみなさんご承知のとおり安全保障問題、あるいは軍事問題で長年にわたって健筆を朝日新聞でふるってこられた方です。ただ、お聞きしますと論説主幹になられてからこういう会合には一回もでたことがない、禁欲されているということです。その点ご理解いただければありがたいと思います。それからお三方目の涂照彦先生は、名古屋大学の経済学部の教授でいらっしゃいます。涂先生は東洋資本主義論を唱道されて、現在も東洋・アジア諸関係で健筆をふるっていらっしゃる方です。涂先生も今日は関西と広島で2つの学会があり、そっちの方に出なければいけないということだったんですけれども、あえてこちらにお願いいただきました。それから、四人目は大倉さんですが、経済学部の助教授です。今日はまた急用が入って、一時間ほど遅れるという電話が先ほど入りました。一応ご紹介しておきます。大倉さんは国際金融論を専門に研究する若手の研究者であります。簡単に四人のパネリストをご紹介いたしました。今日はどういう話を聞けるか楽しみです。よろしくお願いします。

それから、最後になりましたけれども今日このシンポジウムを取り仕切っていただきます司会者をご紹介いたします。手前から小沼さんです。法学部の教授で、社会科学研究所の運営委員をやっていると思っております。もう一方は矢吹さんで、経済学部の教授で社研の研究会担当を引き受けてくださっております。貴重な時間を長々と割きました。今日は私もフロアに座らせていただいてじっくりと4人の方々のご報告を勉強したいと思っております。どうぞ、みなさん最後まで楽しんでいただければありがたいと思います。ありがとうございます。